



様式第 2 号 (第 9 条関係)

令和 5 年 10 月 5 日

尾花沢市議会議長 殿

会派名

代表者 (無会派議員) 名 鈴木 清



調 査 研 究 報 告 書

次のとおり政務活動事業を実施しましたので報告します。

事業名	調査研究先進地視察
期 日	令和 5 年 9 月 2 3 日 (土) ~ 9 月 2 4 日 (日)
主な利用 交通機関	JR 新幹線、在来線
実施場所	① 9 / 2 3 東京都 武蔵野プレイス ② 9 / 2 3 " 町屋かどころサテライト ③ 9 / 2 4 " ふるさと回帰支援センター
調査研究 内 容	① 4 つ機能を複合施設の運営状況と現地を調査した。 同一施設で多様な年代やニーズに応じている運用方法を参考にし、悠美館の利用拡大の提言等に活用する。 ② 認知症特化型の小規模多機能居宅介護施設の運営状況と現地調査を実施した。小規模で多機能な施設とすることで、高い地域性と、切れ目ないサービスを提供している手法を本市の福祉充実の参考とする。 ③ 日本最大の移住相談センターにて、移住相談の現状や課題を教示いただいた。今後の移住対策の参考とする。
参加者	鈴木 清

※添付書類：参加者全員が所感等を任意様式にまとめ添付する

## 「東京都武蔵野プレイス」

「他者が共鳴し合う建築」へと成熟していく図書館

①武蔵野プレイスは、「図書館」「生涯学習支援」「市民活動支援」「青少年活動支援」の機能を併せ持った、図書館を中心とした複合機能施設です。そこには確固たる複合施設への批判があり、プレイス(場)という言葉に期待が込められています。まず視察して驚くのは、外観の柔らかさ優しさです。3階建てに4×3=12のメガネのレンズのような丸い窓があり、夜には橙色の灯がこぼれます。私には、巨大な白いかまくらから、夜に橙色のろうそくの火がこぼれているようなイメージを持ちます。

②中に入って、早速レファレンス。「誰の設計ですか？」と問うと、「有限会社 kw+hg アーキテクト(川原田康子・比嘉武彦)」と答えられましたので、YouTubeで調べました。武蔵野プレイスの建築的特徴は次のような点が挙げられています。

1 交わる機能と人々 2 反復する空間 3 心地よいざわめきを作る吹き抜け  
4 シェル状のユニット 5 施設に隣接する公園

複合施設の批判としては「せつかくの複合施設なのに、区切られ分断され融合していない」と指摘しています。2011年7月にオープンする前にも様々な困難があったようです。折しもTSUTAYA図書館ブームの中、政争(市長交代・反対運動・予算否決・基本設計三度)があったが、現在予想外の市民の指示があり、年間2,00万人の利用者で溢れ、他者といることが心地よくなる居場所・たまり場として成熟し発展しています。

③では、設計者のアーキテクトの2人はどんな思いで武蔵野プレイスを設計したのか、さらに知りたくなり、YouTubeでインタビューを聴きました。すると、2つの命題があったということです。

1 たくさんの他者との関係性を穏やかに、非日常的にチューニングできる施設

2 他者が共鳴し合う建築

そして、プレイス=場のモデルとして、居場所のモデルを作り、人をリラックスさせ、寛容性を豊かに他人といることが心地よくなるプレイスを目指したということです。利用者のツイート集(3000件)の中に、「ここに来ると私はダメ人間ではない気がする(若者)」という発言にはっとします。本市の現状はどうでしょうか。

「図書館」・・・貸し出しが大幅に減少。中高生の利用が少ない。

「生涯学習支援」・・・市民講座がなく、映画上映などを企画が少ない。

「市民活動支援」・・・チラシ・パンフレット等の作成の支援がない。NPO講座やその他の講座・相談事業がない。

「青少年活動支援」・・・若者はどこで何をしているか。(スマホ・ゲーム・ショッピングモールで良いか?)

以上の支援を一つ一つ図書館を中心とした武蔵野プレイスに学び、これから考えていきたい。

### 「東京都・町屋かどころ(小規模多機能型居宅介護)」

#### ①小規模多機能型居宅介護とは

住み慣れた自宅や地域での生活が続けられるように、一人ひとりに必要な支援として「通い(デイサービス)」「訪問(訪問介護)」「宿泊(ショートステイ)」「相談(ケア、マネージャーの相談)」が1つの場所のできるサービスのことを言います。認知症の高齢者が多くなる中、自分の地域で家族と共に居て生活することのメリットがたくさんあること、利用料金を1ヵ月毎定額にできること、介護人材の効率的な配置が可能なこと、利用者にとってより身近な地域でのサービス提供が可能であることなどが分かりました。

②今後、「介護人材をどう確保するか」「介護報酬等処遇改善が必要なこと」「都会より、地方こそ、学校の廃校利用や利用者の趣味・仕事など、豊かな生活体験を活用できるのではないかなど意見交換をしました。かどころの家での利用者が懐かしい美空ひばりの「柔」のカラオケで元気よく歌っている姿を見て、「小規模多機能型居宅介護」の可能性の大なることを確認できました。

### 「東京都・ふるさと回帰支援センター」

①ふるさと回帰支援センターにて設立から21年目の現状と課題を高橋公理事長から伺い、実際に当日行われていた「青森県、Uターン交流フェア2023」を見学させていただいた。考えてみると、自分も30歳でUターン帰郷した移住者だ。自分の子供も、北海道と東京にいることを考えれば、希望するしないにかかわらず「移住」が身近で不可避な問題になっている。また近年NHKテレビでも地方移住ドキュメント番組「いいいじゅう!!」を放送しており、移住を後押ししているようだ。

②センターの資料によると、山形県は移住希望地ランキングでは、2010年第5位であったが、年々下がり続け、現在第20位以下(現在3年連続1位は

静岡県)となっている。移住希望者のニーズを知り、尾花沢の魅力をどう訴えていくかが課題となる。資料では、移住先選択の条件の優先順位は1 就労の場があること\_2 自然環境が良いこと\_3 住居があること\_4 交通の便が良いこと\_5 気候が良いこと等となっている。これに対して山形県のパンフレットは他県と比べ遜色は無い。「移住総合支援ガイド life in 山形」「移住情報誌ヤマガタゴコチ」「新規、就農ガイド book」があり、懇切丁寧だ。本市では新規就農者が多いようなので、さらに若者や子育て世帯・協力隊もターゲットにしてアピールしていただきたい。そのためにもふるさと会生支援センターを積極的に活用して、移住セミナーやイベントなどを頑張りたい。

令和5年11月10日

尾花沢市議会議長 殿

会派名

代表者（無会派議員）名 鈴木 清



調査研究報告書

次のとおり政務活動事業を実施しましたので報告します。

事業名	調査研究先進地視察
期 日	令和5年10月23日（月）
主な利用 交通機関	自家用車
実施場所	【山形県長井市】 ① 一般社団法人 長井市コミュニティ協議会 ② くるんと（長井市遊びと学びの交流施設） 【山形県天童市】 天童市役所 総務部 市長公室 秘書係
調査研究 内 容	① 一般社団法人によるコミュニティセンターの運用について人員体制や財政状況などを調査した。本市における地域が主体となった持続可能で特色のある地域活動体制構築の参考とする。 ② 図書館利活用促進と複合機能施設の運用について調査した。悠美館の利用拡大の提言等に活用する。 ③ 広聴事業の運用について意見集約や回答の方法、公表状況などについて調査した。本市の広聴事業の参考とする。
参加者	鈴木 清

※添付書類：参加者全員が所感等を任意様式にまとめ添付する

# 調査研究先進地視察

鈴木清

● 期日 令和5年10月23日(月)

● 所感 【長井市】

## 1. 一般社団法人 長井市コミュニティ協議会

公民館の運営は、これまでのように社会教育課主管で良いのか、あるいは長井市のように公民館をコミュニティセンター(いわゆるコミセン化)へ移行し、全体を長井市コミュニティ協議会として全体を統括する運営が良いのか——その違いと取り組みを考察しながら視察した。以下所感を記したい。

- ① これまで「学び」を中心にした社会教育の考え方では、今がかかえている課題に応えきれなくなってきているのではないか。(例えば 買い物・公共交通・空き家問題・介護・除雪問題など)
- ② コミセンの公民館職員に国の「集落支援員制度」(年収450万円)が使える。(有利である。)
- ③ コミセンに、地域づくりを担う人材・リーダーの育成のノウハウがあり、地域の協力が得られやすい。
- ④ 持続性のある地域づくりのため、各地区で「地域計画」を策定し、コミセンたよりを発行し、いきいきと活動している。

以上により、今後も本市の公民館活動の参考として考察を続けたい。

## 2. くるんと(長井市遊びと学びの交流施設)

オープンからわずか2ヶ月で10万人の利用者が来るという話題の複合施設「くるんと」を視察。長井市で100年間操業した「郡是製糸(グゼ製糸)」がPPPの手法により整備。「蘭(まゆ)」をモチーフとした特徴的な建物だ。「また、くる(来る)んと」「くるんくるんとでんくり返ししながら元気に遊ぶ」から「くるんと」と命名している。

学び・育ち・遊び・出会いを紡ぐ場所として、図書館・あそびば・子育て世代活動支援センター・コーヒーショップがある複合施設である。その利点を生かし、図書館の図書貸出しは1.5倍、利用者は10倍になっていることに驚かされる。庫前は、館長は小学校校長経験者。司書職員も充実し、飲み物持ち込みOKで、コワーキングスペース、インターネットコーナーなど様々な工夫があり、1日中居たくなる場所である。本市の図書館の活性化のため参考としたい。

### 3. 【天童市役所 総務部・市長公室・秘書係】 広聴事業の運用

本市議会の意見交換会の運用にも大変参考となる天童市の広聴事業であった。市民の声はときに怒りを含む苦情ともなるが、貴重な要望・意見、政策提言となる「宝ものの市民の声である。天童市の広聴事業は、次の3つの柱がある。

- ① 13地区の「まちづくり懇談会」。令和4年度は475人の市民参加、118件の意見・要望があり、ていねいに報告書に回答している。
- ② 「市政への提言」。(専用ハガキ、メール等で提言できる) 令和4年度は412件、所管する課の対応状況の報告がある。
- ③ 市役所1Fに「市民相談室」を開設。令和4年度は319件の広聴事業(うち相談283件、要望29件)があり、市民相談員が伺い、専門的なアドバイスとして、弁護士・行政書士による無料相談も行っている。

以上の広聴事業は、寄せられた市民の声を尊び大事にし、市民のニーズに的確に応えようとする質の高い行政運営の良本であると思われる。本市も参考にできるよう更に研究したい。